

このため、家庭教育に関する学習の機会をもうけるとともに、その内容・方法について工夫改善に努めている。また、家庭・学校・地域の連携によりいっそう学習の充実をはかっている。

まず第1に家庭教育学級では、1小学校区1学級の設置を目標とし、とくに市町村の自主設置学級の増加に努めた。

また、家庭教育研究集会を開催し、学習内容・方法について研究協議をおこない、家庭教育学級の充実を旨としている。

第2には、家庭教育相談事業を実施している。県内の3歳第1子をもつ親を対象として、はがき通信・巡回相談・テレビ放送を行い効果をあげている。

第3には、家庭教育調査研究事業を実施し、今日の家庭教育上の課題を分析検討した。この結果を家庭教育資料として学級関係者に配布し、活用をはかっている。

2 家庭教育研究集会

(1) 趣 旨

社会環境の変化のなかで、家庭教育の充実が強くのぞまれている。そのためには地域における学級活動をさかんにすることが必要であろう。この集会は家庭教育学級における学習内容・方法について研究をすすめる、その活用をはかることを目的とする。

(2) 主 催

福島県教育委員会 郡山市教育委員会

(3) 期 日 昭和56年7月14日(火)

(4) 会 場 郡山市視聴覚センター

(5) 参 加 者 265名

(6) 対 象

① 市町村教育委員会、公民館等の社会教育担当者

② 家庭教育学級リーダー

(7) 講 師

国立中央青年の家事業課長 宮 本 一

(8) 研修テーマ

家庭教育学級充実のために、放送・映画・スライド等をどのように活用したらよいか。

(9) 内容および方法

① 講 義

魅力ある学習をすすめるための教材のつくりかた・つかいかた

② 部会協議

ア 放送を利用した学習のすすめかた

イ 映画を利用した学習のすすめかた

ウ T P・スライド等を利用した学習のすすめかた

部会においては家庭教育資料の内容に関連させて協議する。

3 家庭教育(幼児期)相談事業

(1) 趣 旨

幼児(3歳第1子)の親を対象とし、幼児期の家庭教育に関する具体的な学習資料の提供と個別的な相談指導を行い、幼児期における家庭教育の充実をはかる。

(2) 実施主体

福島県教育委員会

(3) 協 力 機 関

市町村教育委員会

(4) 実 施 時 期

昭和56年5月～昭和57年3月

(5) 対 象

県内の3歳児を第1子に持つ親 13,000名

(6) 事業の内容

① はがき、ちらしによる相談指導(年間5回)

② 巡回による相談指導(県内23会場)

③ テレビ放送(15分カラー 26番組)

(7) 各種委員会

① 企画運営委員会

ア 企画運営委員会は、本事業全般の企画運営ならびにはがき通信・巡回相談・テレビ放送による相談指導の方針や実施要項を策定する。

イ 企画運営委員

氏 名	役 職 名
堀 口 知 明	福島大学教育学部教授
菊 池 章 夫	"
西久保 禮 造	"
庄 司 他人男	福島大学教育学部助教授
鈴 木 仁	福島県立医科大学助教授
須 永 秀 子	福島市立福島第二幼稚園主任教諭
梅 津 絹 子	主 婦
辺 見 正 治	福島市教育委員会教育長
塚 原 喜 智	福島テレビ報道制作局長
丸 子 一 夫	福島県保健環境部公衆衛生課長
猪 股 浩 二	福島県生活福祉部児童家庭課長

② はがき通信委員会

ア はがき通信委員会は、はがきならびにちらしによる通信指導の企画運営にあたる。

イ はがき通信委員

氏 名	役 職 名
西久保 禮 造	福島大学教育学部教授
関 口 はつ江	郡山女子大学短期大学部助教授
鈴 木 仁	福島県立医科大学助教授
山 脇 道 子	福島市立野田保育所長
須 永 秀 子	福島市立福島第二幼稚園主任教諭
遠 藤 久 江	福島県立会津短期大学助教授

③ 巡回相談委員会

ア 巡回相談委員会は、巡回相談指導の企画運営ならびに相談事例についての研究を行う。

イ 巡回相談委員

氏 名	役 職 名
庄 司 他人男	福島大学教育学部助教授
河 野 義 章	"
小 森 澄 憲	郡山女子大学短期大学部助教授
林 偕 子	" 講師
渡 辺 俊 彦	福島女子短期大学助教授